

4) 左鎖骨下動脈強度狭窄症例に対する stenting における一工夫

小池 哲雄・佐々木 修 (新潟市民病院 脳神経外科)
 齋藤 明彦 (新潟市民病院 脳神経外科)
 伊藤 靖 (新潟大学 脳神経外科)
 本田 吉穂・渡辺 徹 (水原郷病院 脳神経外科)

65歳、男性で平成11年1月頃より右下肢の筋力低下を自覚するようになった。平成11年9月にはさらに右下肢の脱力が進行するとともに、その頃より一瞬記憶を失いへたり込むように倒れる発作が三回あった。そのため水原郷病院を受診した。初診時軽度の右片麻痺と上肢の20 mmHg 以上の血圧差(右>左)を認めた。脳 CT では多発性の lacunar infarction が見られた。血管造影上、AOG では左鎖骨下動脈閉塞とそれに伴う鎖骨下盗血症候群と思われたが左鎖骨下動脈盲端部より造影剤を注入すると強度な狭窄部を介してその末梢の鎖骨下動脈が造影された。以上より鎖骨下動脈狭窄部の血管形成術の適応と判断し、平成12年2月3日先ず femoral route より guide wire の狭窄部通過を数回に渡り試みたが不首尾に終わったため、左腕動脈より逆行性に guide wire の狭窄部通過を計った。何回かの try の末、狭窄部を経て大動脈内への guide wire の挿入をなし得た。次いで置換用の guide wire を下行大動脈へ進めて、femoral route より進めた血管内異物除去装置でその guide wire を trap し、femoral route より体外へ引き出した。その後は通常の手順で4 mmφ × 4 cm, 7 mmφ × 4 cm の PTA balloon で predilatation を行った後、10 mmφ × 4 cm の PTA 用 balloon に mount した PALMAZ™ stent を 8 atm, 10 atm それぞれ30秒の balloon dilatation で狭窄部に置き、満足すべき拡張を得た。直後の血管撮影で順行性の左椎骨動脈血流を確認した。これら一連の操作の間、distal embolism の予防のため左椎骨動脈の血流は腕動脈より進めた Miyam balloon catheter で遮断をした。術後神経学的に新たに生じた症状は無く経過良好であるが、両上腕の血圧の左右差は解消しなかった。操作中に左腕動脈の内膜剥離などが生じたのかもしれない。

5) Contrast-Enhanced TCCD の使用経験

曾我 洋二・伊藤 靖 (新潟こばり病院 脳神経外科)

【目的】TCCD (Transcranial Color-Coded Duplex Sonography) はこれまでの TCD と異なり、目的とする血管を視覚的に確認する事ができ、また血管とパルスビームとのなす角度を計測できるので、入射角度補正をすることにより、より正確に血流速度測定する事が可能となっている。特定の血管の血流速度を再現性をもって測定できることは、特にくも膜下出血後の脳血管攣縮にたいし有用であると思われるため、当院ではくも膜下出血術後の症例に対し、経時的に TCCD を行う方針としている。しかし、これまでの報告のごとく、特に中年以降の女性では超音波が側頭骨を通過せず、検査が施行できない場合が少なくなかった。そこで、昨年より使用可能となった超音波診断用造影剤(ガラクトース・パルミチン酸混合物)をもちいて Contrast-Enhanced TCCD を施行し、頭蓋内血管の造影効果、有用性につき検討した。

【方法】通常の TCCD (東芝社製超音波診断装置 SS A-260 A, 2.5 MHz セクタ型プローブ)にて血管の描出が困難であった、くも膜下出血術後の患者にたいし、Contrast-Enhanced TCCD を施行した。

【結果】通常の TCCD にて頭蓋内血管の検出が困難であった症例においても、超音波診断用造影剤をもちいることにより、十分に評価可能となった。

【考察】Contrast-Enhanced TCCD により、早期に脳血管攣縮を診断し、その後の治療にもっていける可能性があると思われた。今後さらに症例を積み重ねて検討を加えてみたい。

6) 脳磁図 (MEG) の脳神経外科・てんかん外科領域への応用

大石 誠・亀山 茂樹 (国立療養所西新潟中)
 富川 勝・師田 信人 (尖病院脳神経外科)

当院のてんかんセンターでは平成12年4月、Neuromag 社製全頭型204チャンネル脳磁界計測装置を導入し、てんかん患者に対する臨床検査の一環として脳磁図 (MEG) の測定を開始した。

大脳における電気的活動を頭皮上の電極を用いて観察する脳波 (EEG) に対して、同活動により発生する微弱磁界を高感度センサー (SQUID) により測定する MEG は、基本的には同じ事象を EEG と違った側面から見ていることになる。髄液・頭蓋骨・頭皮などによ